

ひと

## 「明日の象徴」を受賞したOECD職員

むらかみ ゆき  
村上 友紀 さん(35)

日本の皆保険制度をはじめとする先進国の医療財政制度を途上国に紹介し、誰でも基本的な医療を受けられる国づくりを手伝う。そんなプロジェクトの責任者を経済協力開発機構（OECD）で務める。「高齢化の進む日本で医療制度はどう成り立っているのか。その知恵が求められているのです」  
こうした活動が認められ、医療



や保険の分野で活躍する若手を顕彰する第2回「明日の象徴」（全日本病院協会、日本病院会など主催）のひとりに選ばれた。

青山学院大在学中は雑誌「CanCam」のモデルとして活躍。仲間に米倉涼子さんらがいた。「女優にならないか」と声をかけられたが、そんな自分の姿が想像できず、「国際舞台で働きたい」という夢を貫いた。渡米しハーバード大の大学院などで学んだ。

世界銀行に就職して中南米・カリブ地域を5年間担当したが、求められたのは資金より経済政策立案などの知識だった。各国の政府関係者らに問われ、満足いく答えができずに悔しい思いをした。

「先進国の制度や経験を途上国に発信できないか」。2年前にOECDへの転職を決意した。

パリ在住。所属する医療課には11カ国38人の職員がいて異文化のつぼ。それでも「ここからが勝負です」。イタリア人でユネスコ勤務の夫はアフガニスタンに赴任中。3歳の息子の笑顔に励まされている。文・坂田一裕 写真・関田航